

新規事業採択時評価結果（令和4年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業の概要

事業名	地域高規格道路 甲府富士北麓連絡道路 一般国道137号 河口～藤野木区間	事業区分	一般国道	事業主体	山梨県
起終点	自：山梨県南都留郡富士河口湖町河口 至：山梨県笛吹市御坂町藤野木	延長	5.8 km		

事業概要
国道137号は、二大生活圏である甲府都市圏と富士北麓地域を結ぶ重要路線であるが急カーブ・急勾配区間が連続し、事故や積雪時のスタックやスリップ事故が多発している。このため、安全で信頼性の高い道路及び富士山噴火などの大規模災害時の避難路・救援路として整備が早急に必要である。また、現在の新御坂トンネルは建設から50年を超過しており老朽化が著しく、多くの箇所でも漏水が発生しており新トンネルの建設が必要である。富士河口湖町を起点とする約5.8kmの計画である。

事業の目的、必要性
当事業の整備により、急カーブ・急勾配の区間が解消されることで積雪時のスタックやスリップ事故の減少、更には甲府都市圏と富士北麓地域のアクセス向上により高度医療機関の広域的な活用や観光の広域化、また大規模災害時の広域避難路の機能強化が期待される。

全体事業費	約372億円	計画交通量	17,000台/日
-------	--------	-------	-----------



関係する地方公共団体等の意見
笛吹市をはじめとする関係3市2町3村の首長で構成される甲府笛吹富士河口湖富士吉田線促進期成同盟会から本事業の早期整備を要望（令和元年8月30日）されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
山梨県公共事業評価委員会において、新規事業化は妥当であると了承。

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を上回っている。
沿線自治体から早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.3	総費用：245億円 事業費：240億円 維持管理費：4.9億円	総便益：314億円 走行時間短縮便益：269億円 走行費用減少便益：42億円 交通事故減少便益：3.2億円	基準年：令和3年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.2 (交通量 -10%)	B/C=1.4 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=1.2 (事業費 +10%)	B/C=1.4 (事業費 -10%)	
		事業期間変動	B/C=1.1 (事業期間 +20%)	B/C=1.3 (事業期間 -20%)	
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	—	注目すべき影響はない。	
		事故対策	◎	新トンネル建設による線形・縦断改良で事故件数の減少が見込まれる。 【死傷事故件数】過去10年間で124件発生 全国平均（※）の6倍以上 ※国道における非市街地の単路部（イタダデータ延長換算）	
	歩行空間	○	歩道整備による歩行空間確保。 【現トンネルは歩道なし】		
	社会全体への影響	住民生活	◎	甲府都市圏と富士北麓地域への通勤、通学、第三次高次医療である山梨県立中央病院へのアクセス向上が図られる。 富士河口湖町役場～中央病院の所要時間58分→50分	
		地域経済	◎	山梨県内の2大生活圏である甲府都市圏と富士北麓地域を結ぶ観光ルート強化による観光入込の増加。 武田神社～河口交差点の所要時間55分→47分	
災害		◎	富士山噴火時の広域避難を迅速に行うための機能強化、台風等による通行止の際の中央自動車道や国道20号の代替路として機能。		
	環境	—	注目すべき影響はない		
	地域社会	◎	第一次緊急輸送道路として位置づけられているが、今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が高いエリアに位置しており、輸送路としての強靱化が図られる。		
事業実施環境	○	甲府笛吹富士河口湖富士吉田線促進期成同盟会から早期整備を要望されている。また、PI（パネル展やアンケート）や住民説明会により地域の合意形成を図っており事業化の環境は整っている。			

採択の理由

事業主体である山梨県が実施した公共事業評価結果に基づけば、費用便益比が1.3と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、交通事故発生量の軽減、2大生活圏のルート強化による産業・物流や観光振興の発展、大規模災害時の避難路や代替路としての機能強化、高次医療機関へのアクセス向上など、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。
以上のことから、本事業は令和4年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。